

# 2015年度第23回NPO STARS フォローアップセミナー報告書

「聴いてみよう、語ってみよう、これからの日本の子ども家庭福祉～子どもの幸せのために私たちができること～」

日 時 2015年7月5日(日) 10時～16時

場 所 汐留FSビル

参加総数 88名

セミナープログラム 第1部 シンポジウム



「聴いてみよう、語ってみよう、これからの日本の子ども家庭福祉～子どもの幸せのために私たちができること～」

第2部 報 告 2014年度第40回資生堂児童福祉海外研修団員

第3部 徹底討論 「こう考える、私たちの進む道～子どもたちの幸せのために、私たちが目指すもの～」

<コーディネーター> 子どもの虹情報研修センター 研修部長 増沢 高氏(23期・37期)

## 概要

第35期から39期の訪問国を、ドイツ・イギリス(ヨーロッパ先進国)、北欧、アメリカの3つのグループに分け、各グループが「こう考える、私たちの進む道～子どもの幸せのために私たちが目指すもの～」をテーマに、歴史や文化に裏付けされた、他の国にはないその国故のもの、その強みや課題をテーマにプレゼンテーションを行いました。また、第1部に引き続き、増沢氏がコーディネーターとして、参加した皆様の意見を交えながら、日本の子ども家庭福祉の未来について考えました。アメリカの田中氏は「エビデンスベースプラクティスに基づいた家庭支援×日本における包括的な家庭支援」と題して、子どもの虐待死亡事例をなくすためにより効果的な家庭訪問の実施について討論テーマに挙げました。また、北欧の柴田氏は、「妊娠期からの継続的な地域支援」と題し、小さいエリアで対応するソーシャルワークの実践として「子ども福祉特区の創設」の必要性を討論テーマに挙げました。ドイツ・イギリスの松本氏からは、「ドイツ・イギリスのストレンクスから日本の未来を考える」と題して、地元熊本の「こうのとりのゆりかご」の実践から見えてくる日本の課題や児童養護施設と心理治療施設の二重措置について討論テーマに挙げました。増沢氏からは、乳児院と里親の二重措置を例にして、子どもは環境の変化に対する弱

さがあるのだから、これからははっきり分けられない良さ、重なることの大事さを考えていく必要があること、そして、よ

い実践をエビデンスとしていく為には、大学との連携や数値化していくことが重要であり、日本でも幼少期にたくさんのお金をかけることが将来の社会保障の予算を削減することに繋がることを実証していかなくてはいけないと述べられていました。残念なことに時間の関係上、当初考えていたような会場と十分な意見交換は行えませんでした。それぞれの国の強みに焦点を当てた内容であり、参加者には多くの学びを提供できたと思います。

## 所感

このセミナーは、海外研修の知見を活かした実践報告を中心として会員向けに開催しています。また、この機会を同期との再会の場として活用されている方々もいるようです。今回東京での開催となり、近隣の大学へ声掛けをして、これからの社会的養護の現場を担う熱心な学生の方々に参加していただくことができました。さらに今回は増沢氏のコーディネートによって、内容がより深く掘り下げられ、大いに実践に役立つものとなりました。アンケート結果によるとテーマや討論会に興味を持って参加された方がたくさんおり、大変光栄でしたが、内容を欲張ってしまった分、もっと討論したかったという意見もありました。今後は日本全体が「こども特区」になるべく、日本の児童福祉発展のために、NPOSTARSは邁進します!

